

スタチの皮で メタボ抑制

徳大・赤池教授まとめ



徳島大学大学院の赤池雅史教授(医療教育学)の研究グループが、スタチの皮にメタボリック症候群の人の中性脂肪を減らす効果があるという実験結果をまとめた。研究グループでは内臓脂肪改善のサプリメントなどへの利用が見込まれるとして、今後スタチに含まれる有効成分特定へ向けた分析を進める。

赤池教授らは県内のメタボリック症候群とその予備軍39人を2グループに分け、一方のグループにはスタチの皮の粉末を含んだ錠剤(スタチ3分の1個分)を、もう一方には栄養価のない錠剤をそれぞれ12週間服用してもらった実験を実施。服用前と服用後で中性脂肪や体重にどのような変化があるかを調べた。

有効成分特定進める

中性脂肪120約/総以上の11人のうち9人の中性脂肪値が改善し、体重も8人が減少した。11人の平均は中性脂肪23・6%減、体重1・3%減、腹囲1・6%減。最も中性脂肪値が減った人は48%減だった。中性脂肪120約/総未満の8人には、目立った特徴はなかった。

栄養価のない錠剤を服用した20人は、中性脂肪値に関係なく大きい変化はみられなかった。

赤池教授によると、かんきつ類にはシネフィリンという物質が含まれており、動悸や不整脈、血圧上昇などの副作用をもたらすが、スタチはシネフィリンの含有量が他のかんきつ類と比べて格段に少なく、服用に適しているという。

(大塚康代)

スタチの皮のメタボリック症候群抑制の効果を臨床実験した徳島大学大学院の赤池教授と向大蔵本キヤンパス